【様式】

平成３１年度　学校マネジメントシート

学校名（　尾鷲高等学校　全日制　）

１　目指す姿

(1) 目指す学校像		「個に応じ個を生かす教育の実践」 「当たり前のことが普通にできる生徒の育成」
(2)	育みたい児童生徒像	１　様々な進路希望を持つ生徒が、自らの目標の実現に取り組んでいる。 ２　身だしなみや言葉遣い、社会生活に必要なマナーが身に付いている。 ３　卒業後、地域を支えるリーダーとなる人材としての資質が備わっている。
	ありたい教職員像	１　生徒それぞれの学習目標に対応した教育が実践できている。 ２　社会生活を送る上での「当たり前」を実践し、生徒の範となっている。 ３　保護者、地域から信頼され、目指す学校像に基づいた指導ができている。

２　現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		生徒…楽しい学校、よくわかり参画意欲の高まる授業、安心して学習できる環境 地域（保護者を含む）…進路希望の実現、地域を元気にする情報の発信 地域のリーダーとなる人材の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		①保護者…進路希望を実現させる進学・就職指導 ②中学校…高校生活を通して成長し、生き生きとした生徒の育成	①保護者…教育活動への支援と協力 ②中学校…尾鷲高校への進学に向けた連携・協力
(3) 前年度の学校関係者評価等		・「生徒」が前面に立ち、本校について自らの言葉で語ることは、本校をＰＲする格好の機会となり、在校生、中学生いずれにも良い刺激になるのではないか。 ・地域連携の一環として本校との関わりを望む企業や団体は数多く、生徒が目的意識を持ち、前進するきっかけとなれば非常に良い。 ・卒業後、都市部へ進学、就職しても対等に渡り合えるだけの学力を付ける必要がある。基礎学力の定着のために本校の教員が行っている活動を継続していただきたい。	
(4) 現状と課題	教育活動	１　生徒の学力・学習意欲が多様であり、それぞれの進路目標に応じた基礎学力を定着させる必要がある。 ２　進路指導では概ね生徒の希望を実現できているが、進学については、指定校推薦など、学力試験を伴わない制度による入学にやや偏重している。 ３　生徒の規範意識は徐々に高まっているが、一部には課題を持つ生徒も存在する。 ４　全国・東海大会に出場する部もいくつかあるが、加入数は減少傾向にある。	
	学校運営等	１　基礎学力向上のための組織的な取組を行う必要があるが、学級担任や教科担当者レベルでの個々の動きに留まっている。 ２　教員の過重労働時間が多く、緩和・解消に至っていない。 ３　毎年度、教職員の転入出が多く、業務の引継ぎが難しい場面がある。	

３　中長期的な重点目標

教育活動	１　基礎・基本的な学力レベルを引き上げ、各学科、コースの目指す学力の定着を図るため、日々の授業を大切にし、その充実をはかる。 ２　進路指導における対話を重視し、生徒個々の進路実現に対する理解を深めさせる。 ３　社会人として生きるためのマナー、人権感覚、命を大切にする心を育成する。 ４　尾鷲高校の魅力的な取組を保護者や中学校、地域に積極的に発信する。

学校運営等	1　基礎学力の向上に向け、学科を中心として学年、教科担当者、学力向上担当の連携を密にする。 2　職員の総勤務時間の縮減に取り組み、生徒も職員も生き生きした学校を目指す。 3　業務の円滑な引継ぎと職員間の連絡・報告・相談を徹底し、効率的な校務運営を行う。 4　風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。 5　学校関係者評価委員会を通じて、校外からの観点、意見を積極的に取り入れる。

4　本年度の行動計画と評価

（1）教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力定着 （教務部）	学力定着のため年間自習を200時間以内に納める。 【成果指標】 年度末に自習時間をカウントする。	112回（R2年3月1日現在） 133回（H31年3月1日現在）	
生徒指導 （生徒指導部）	朝の挨拶運動で挨拶と身だしなみの徹底を図り、指導の入りやすい環境作りに努める。 【成果指標】 生徒アンケートで9割の肯定的回答を得る。	制服を正しく着用できますか。99，4% 適切な頭髪を保てていますか。99，8% 化粧をしないようにしていますか。99，0%	
希望進路の実現【進学】 （進路指導部）	進学希望者に対して、個別相談・面談を増やし、また担任や保護者との連携を密にし、全員の進路希望実現を目指す。 さらに進路指導に関する校内研修を企画・実施をし、教員の指導力向上に努める。 【成果指標】 ・国公立大学合格者を10人以上出す。 ・大学一般入試で河合塾偏差値 60 以上の大学への合格者を出す。 ・短大・専門学校進学希望者の合格率を100%にする。	国公立大学の合格者はのべ18人、公立短大は4名であった。また偏差値60以上の大学には12人が合格した。また短大･専門学校の合格率は98.5%であった。	
希望進路の実現【就職】 （進路指導部）	就職希望者への面談を強化し、希望職種と個人の適性とのマッチングを図る。 【成果指標】 ・就職内定率を100%にする。 ・公務員合格者を複数名出す。	企業の就職試験では1人の不合格者を出すこともなく、全員一次応募において内定率100%を達成した。公務員試験でも6名合格した。	
希望進路の実現【1･2年生】 （進路指導部）	進路ガイダンス・進路講話を実施し進学・就職対策ならびにキャリア教育の充実を図る。	進路ガイダンス、進学講演、看護ガイダンス、就職講話等を実施し、キャリアアップに努めた。	
人権感覚の醸成 （人権）	人権教育推進協議会（本校主催）、紀北地域人権教育推進小中高等連絡会議（尾鷲市教育委員会主催）において、人権LHR等を公開。事後の意見交換会で出された課題について、施策を検討する。 【成果指標】 年3回の人権LHRのうち、1学期と2学期には公開し、事後の意	6月19日の人権LHR 11月6日 5限の授業を公開事後に意見交換会を行った	

	見交換会を実施する。		
教科による資格取得指導(情報ビジネス科)	資格取得に向けた補習指導を行い、難関資格（日商簿記検定２級など）の取得や合格率向上を目指す。 【成果指標】 昨年度よりも高い合格率を目指す。	日商簿記検定２級、全商簿記実務検定1級、に1名ずつ合格者を出すことが出来た。各検定ごとに補習を実施し、結果を出すことが出来た。	
教科による資格取得指導(システム工学科)	・全員受験指導、補習指導の実施。 ・ガス溶接（２年）80%以上 ・計算技術３級（１年）100% ・危険物丙種（１年）80%以上の合格 【成果指標】 昨年度における合格率との比較	ガス溶接　１００％ 計算技術：９７％合格 危険物丙種:67%合格	
学科における基礎学力定着指導(情報ビジネス科、システム工学科)	情報ビジネス科・システム工学科において、義務教育段階の内容も含めた学び直しを充実させ、基礎学力の定着を図る。 【成果指標】 基礎力診断テストＤ３対象者数を比較して、減少を目指す。	2学期より基礎力向上に向けて、小テストと補習指導を実施。生徒は前向きに取り組んだ。 その結果、減少する事が出来た。	

改善課題

・自習時間については、目標が達成するとともに昨年度より減少した。改善点は引き続き、出張の精査である。（教務）
・制服については女子スカート丈の基準違反（成長に伴うもの）、頭髪については長期休業中の染色、化粧は下校時などの指導が今後の課題である。（生徒指導）
・次年度以降の大学入試制度が流動的であり、生徒たちも困惑している状況である。多様化する入試に対し、情報を集め、生徒個々の有利な入試方法を選択していく必要がある。（進路）
・次年度は製造業において採用人数を減らす動きがあり、状況が厳しくなることが予想される。入社試験をクリアしていくためにも学力向上を第一に指導していく必要がある。（進路）
・キャリア教育の充実を図るためにも、継続してガイダンス等を実施していく必要がある。（進路）
・人権教育推進協議会について時期や回数について今後検討を進めたい。（人権）
・難関資格に挑戦が出来るレベルに引き上げ、受験者数を増やす。（情報ビジネス科）
・危険物試験は広範囲な問題が出題されるため、補習日数の確保が必要となる（システム工学科）
・基礎学力向上についての取り組みは、専門学科だけではなく学校全体として取り組んでいく必要があるのではないか。（情報ビジネス科）
・８月テストの内容をみて２学期より専門授業開始時に３分間テストを実施。放課後、補修等も実施したが、よりシステマティックに効率化を図り実施する必要がある。（システム工学科）

（２）学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程 （教務部）	新学習指導要領に向けて、新しい教育課程の研究をする。 【成果指標】 2 学期をめどに 4 年度の入学生の教育課程を組んでみる。	教科書がなく、大学入試の方向性に関する情報もないため未完成。	
学校情報の提供 （総務部）	学校ホームページやブログの更新、パンフレットや通信紙の作成など、幅広い広報活動を通して、学校の様子を地域に積極的に発信する。その活動によって、学校と地域との関係を深め、地域に根ざした安心できる学校づくりを目指す。 【成果指標】 学校ブログ・通信紙「鷲高人」の更新・作成頻度を前年度と比較して評価する。	学校ブログ 更新頻度に関しては昨年度と同じであったが、他分掌の先生方にもブログに関わってもらい、昨年度と比べて学校行事の内容をより具体的に掲載できるよう心掛けた。 鷲高人 現時点では、発行回数は同じであるが、昨年と比べて以下の2点を改善した。①発行期間を1･2学期に集中させ、中学生が高等学校を選ぶ際の資料として利用できるようにした。②配布する中学校の数を増やし、掲載者の出身小学校にも配布するなど、配布範囲を拡大した。	
学校情報の提供 （生徒会）	喫煙防止、薬物乱用防止などのボランティア活動に参加する。 【成果指標】 地元新聞紙に 2 回以上掲載される。	鷲高祭、いじめ防止サミットなどについて地元新聞紙に3回掲載された。 ボランティアについては、献血推進ボランティア、東紀州くろしお学園おわせ分校の体育祭、社会福祉協議会のこども映画上映会の運営ボランティアなどに参加した。	
情報共有 （生徒指導部）	週に 1 回部会を開き、その時々の課題を整理確認し、情報共有をすることにより問題行動の未然防止に努める。 【成果指標】 部会の回数（30 回以上）と過去 3 年間の特別指導の延べ人数の平均を下回る。	部会27回 指導人数18人 平均20.6人 （2月末現在）	

人権教育 （人権）	保護者宛の人権通信「素心」を発行し、啓発活動の推進を図る。 【成果指標】 年度末に検証する。	7 月に発行した。3月にも発行予定	
学科情報の提供 （情報ビジネス科）	地域との連携活動を通して、学科の魅力を発信する。 【成果指標】 報道機関へ５回以上取り上げられることを目安とする。	課題研究で3回、文化祭での情報ビジネス科としての取り組みで1回、新聞社等で情報を提供。	
総勤務時間の縮減	・月に少なくとも１回は定時退校する。（85％以上） ・部活動について１週間に少なくとも１回休養日を設ける。（90％以上） ・放課後に開催される会議を６０分以内に終了する。（70％以上） 【成果指標】 ・時間外労働時間を月あたり４時間削減する。 ・休暇取得日数を年あたり１日分増やす。 ・月８０時間を超える時間外労働者を延べ人数２０人削減する。 （令和３年４月以降０人にする。）	昨年→今年 （4 月～12 月） 【定時退校】 82%→66%　(−16%) 【部活動】 87%→97 %　(+10%) 【会議】 60%→72%　(+12%) 【時間外労働】 19.6h→19.0h　(−0.6h) 【休暇取得日数】 （1 月～12 月） 24.2 日→22.5 日（−1.7） 【80 時間超】 のべ 40 人→16 人（−24 ）	

改善課題

・新教育課程について各教科に情報収集を重ねてお願いしなければならない。（教務）
・来年度から総務部の人数が１名減ることを想定し、必要な業務を見分けて分掌の人数に応じた広報活動を引き続き促進する。（総務）
・今年は修学旅行と重なり生徒の少ないときに喫煙防止キャンペーンの日程となったので、来年は日程調整をしっかり行いたい。（生徒会）
・生徒指導部会を定期的に開き、情報共有することで、より一層の問題行動の未然防止に努める。（生徒指導）
・人権通信の発行時期はこれでよいとして、どのような内容にするか引き続き検討する。（人権）
・引き続き新聞社に情報を提供して学科の魅力を発信する。（情報ビジネス科）
・膨れ上がった業務を精選するのは大変難しい。職員数も年々減少するため、その難しさが増す一方である。思い切って仕事を精査することが求められている。

５　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・尾鷲高校は年々落ち着いてきて、今はかなり良い状態にある。毎日、先生方が交差点や校門に立って挨拶指導をするなど指導のたまものである。学校の取組みは小さいことでも「継続」が大切である。自信をもって指導の「継続」をお願いしたい。 ・近年の尾鷲高校の良い点がなかなか外に伝わってこない。魅力の発信にさらなる工夫をお願いしたい。 ・学級減の防止のみならず地域創成という観点からも、生徒に地元の良さを教えてほしい。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・基礎学力向上の取り組みや登校指導など日ごろ取り組んでいる教育活動を「継続」する。 ・より効果的な尾鷲高校の魅力の発信方法を検討し実施する。たとえば、これまでプログレッシブコースの取り組みであった地域創成をテーマにした総合学習「まちいく」をスタンダードコースにまで拡張する。
学校運営についての改善策	・総勤務時間の縮減の目標をいかにしたら達成できるか、真剣に検討し実施に移していく。 ・職員の入れ替わりが激しい本校において、仕事の引継ぎがスムーズにできるように各分掌でマニュアルを整備するなど工夫を凝らす。